

令和 4 年度第 1 回小牧市環境審議会 議事要旨

日 時	令和 4 年 11 月 7 日（月）午後 2 時～午後 3 時 30 分
場 所	小牧市役所 本庁舎 6 階 601 会議室
出 席 者	【委員】 石川 英里（中部大学工学部教授） 今枝 正（こまき環境市民会議会長） 岡村 恵美（公募委員） 長内 敏将（市内 ISO14001 認証取得事業者） 酒井 美代子（小牧市女性の会会長） 馬場 容子（公募委員） 宮脇 稔（愛知県地球温暖化防止活動推進員） 森川 智之（小牧市小中学校校長会） 山本 敦（中部大学応用生物学部教授） 吉本 三広（市内事業所推薦） 【事務局】 舟橋市民生活部長 駒瀬市民生活部次長 梅村環境対策課長 鈴木ごみ政策課長 古田環境政策係長 日比野環境保全係長 若山主事 若原技師
欠 席 者	0 名
傍 聴 者	0 名
配布資料	・資料 令和 4 年度小牧市環境年次報告書（案） ・追加資料 ゼロカーボンシティ実現に向けた市の率先行動基本方針

主な内容

1 舟橋市民生活部長あいさつ

委員の皆様におかれましては、大変お忙しいところお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。日頃より小牧市の環境行政に深いご理解とご協力をいただき、改めて厚く御礼を申し上げます。

皆様、ご存知のとおり気温や海水面の上昇、また、大雨の頻度が高まるなど、気候変動の影響が最近顕著にあらわれており、より一層の地球温暖化対策が求められています。そのような中、国においては、2050年カーボンニュートラルの実現を目指すことを宣言し、小牧市におきましても、昨年6月に、ゼロカーボンシティの表明をしたところであります。

また、今年の夏は全国的に電力需給がひっ迫し、小牧市でも市民の皆様へ節電の呼びかけをさせていただいたところでもありますし、この冬も電力需給が心配なところでもあります。様々な分野で、エネルギーの確保、また、省エネ対策が求められているところでもあります。

様々な環境施策を適正に進捗を図るためには、皆様をはじめとした外部の方からのご意見の反映が不可欠だと考えております。どうか皆様の豊富な識見をお借りしまして、2年間の任期ではありますが、小牧市の環境行政にご指導、ご鞭撻賜りますようお願い申し上げます。2年間、どうぞよろしくお願いいたします。

○小牧市環境審議会について事務局より説明

(事務局)

第三次小牧市環境基本計画をお持ちの方は、59ページ 環境基本条例第5章 環境審議会をご覧ください。

小牧市環境審議会は、小牧市環境基本条例第24条で、その設置を規定しております。環境行政の総合的かつ計画的な推進について調査審議していただくものです。調査審議していただく内容としましては、第24条第2項に列記しておりますが、主に(1)環境基本計画に関すること、(2)年次報告書に関することの2点となっております。

環境基本計画に関することについては、計画の策定、改定作業になります。この第三次小牧市環境基本計画につきましても、令和2年度から令和12年度の11年間の計画期間としており、5年を目安に見直すこととしております。

次に、年次報告書に関することについては、環境基本計画の施策の進捗管理を毎年、年次報告書として公表することとなっております。その報告書の原案の審議を行うもので、本日ご審議いただく内容となっております。今年度の会議につきましては、本日の1回を予定していますのでよろしくお願いいたします。

委員の任期につきましては、第25条第3項に記載のとおり、2年間となっております。

続きまして、60 ページをお願いします。小牧市環境審議会規則第 3 条をご覧ください。会議開催の要件は、過半数の出席となりますので、6 名以上の出席が必要となっております。

また、本日も冒頭でお話しさせていただきましたが、規則第 4 条に規定しておりますとおり、会議は原則公開となっておりますのでよろしくお願いします。小牧市環境審議会については以上となります。

2 議題

(1) 会長・副会長選任

- ・互選により、会長に山本委員、副会長に石川委員を選任。
- ・会長あいさつ

(2) 令和 4 年度小牧市環境年次報告書（案）について

- ・事務局より、令和 4 年度小牧市環境年次報告書（案）を用いて下記のとおり説明。

(事務局)

それでは、議題（2）の小牧市環境年次報告書について説明させていただきます。事前に配布させていただきました小牧市環境年次報告書（案）をご覧ください。

まず、その構成についてご説明します。年次報告書については、小牧市環境基本条例第 23 条により、「市長は、環境の状況及び環境施策を推進した結果に対する評価、継続的改善に向けた取組等について年次報告書を作成し、これを公表しなければならない」とあります。これにより、市民・事業者の環境に対する認識を深め、環境配慮行動を促すものであります。

内容につきましては、令和 3 年度の環境の状況、環境基本計画施策の実施状況を記載しております。

表紙をめくっていただくと最初に、小牧市の目指す環境像、この計画が SDGs へ対応していること、昨年 5 月に SDGs 未来都市の選定されたこと、6 月にゼロカーボンシティ表明をしたことについて記載しております。

次に、1 ページから 2 ページをご覧ください。ここでは、小牧市の自然環境及び令和 3 年の気象状況について記載しております。

次に公害の状況について、3 ページから 6 ページで大気についてまとめております。大気汚染に係る環境基準としまして、二酸化硫黄、二酸化窒素など 5 つの物質が定められておりますが、光化学オキシダントについては環境基準を達成していない状況でありました。光化学オキシダントについては、自動車の排出ガス、工場等からのばい煙などに起因するものと考えております。なお、二酸化硫黄及び一酸化炭素の 2 物質につきましては、測定開始以降継続して環境基準を達成していたため平成 25 年度より測定項目から削除しています。

7 ページから 9 ページでは、水質についてまとめています。市内 12 河川で毎年水質調査を実施しており、産業排水による水質汚濁は、規制強化により改善されてきて

おりますが、現在では、一般家庭からの生活排水などの汚れが大きな原因となっております。水質の汚濁を示す指標として 8 ページに BOD、生物化学的酸素要求量の測定結果を調査地点ごとに棒グラフで表しております。

10 ページをご覧ください。土壌については、県から報告を受けた市内土壌汚染発生件数を掲載しております。令和 3 年度は 0 件でした。騒音・振動につきましては、全ての観測地点において環境基準を達成している状況でした。

12 ページをご覧ください。公害の苦情件数につきましては、大気汚染に関する苦情が多く、内容として主に一般家庭や事業系の焼却、いわゆる野焼きの苦情が多くなっております。

次に廃棄物の状況についてご説明します。13 ページから 19 ページに記載しておりますが、14 ページのグラフにありますとおり、家庭から排出されるごみの量は年々減少しておりますが、令和元年、2 年度は増加し、令和 3 年度は減少しました。

次に小牧市の環境施策についてご説明します。20 ページから 23 ページでは、第三次小牧市環境基本計画の概要について記載しております。

24 ページ以降をご覧ください。ここから第三次小牧市環境基本計画に基づく令和 3 年度の施策状況の説明となっております。第三次小牧市環境基本計画では基本目標、環境テーマごとに指標を設定し、2030 年度の目指す方向を矢印で示しています。年次報告書では、目標達成に向けて各部署が実施した事業の概要や実績の報告及び現状の数値についてまとめております。掲載内容につきましては、基本目標ごとに分け、環境テーマごとに概要、指標の進捗状況、達成度を掲載し、主な事業を抜粋して事業概要及び実績を、その他の事業についてはその他取り組み欄にまとめ、最後に基本目標ごとの評価を載せています。

令和 2 年度に引き続き令和 3 年度についても、コロナ禍の影響を受け、実施を縮小・中止せざるを得ないものもありましたが、多くの事業で、実施内容を工夫するなどできる範囲内での成果をあげることができました。

本日、ご協議いただき承認いただいた後は、市長の決裁の後、ホームページ等で公表していく予定であります。以上で説明を終わります。ご審議の程、よろしくお願いいたします。

【質疑】

（吉本委員）

前年度の年次報告書に 3 年度実績を加えて更新した構成内容となっており、非常に見やすい、分かりやすい冊子になっているかと思います。同時に、SDGs やゼロカーボンシティ等の施策についても、随所で盛り込まれており、全体的に分かりやすいかなと思っております。具体的に数字を見ますと、小牧市全体としては改善傾向にあるのかなというふうに見ました。

数点発言させていただきます。まず 1 ページに河川の状況ということで、五条川、大山川など主要な河川が示されております。これは尾張建設事務所管内の図面をその

まま引用してきたかと思いますが、字が読み取りにくく、わかりづらいです。次回以降、可能であれば小牧市として編集し直して、もう少しわかりやすい、見やすいものになればと思います。

次に感想になるかもしれませんが、12 ページの公害の苦情の集計のところです。32 ページ、33 ページでも数字が記載されています。大気汚染、騒音、悪臭など市民生活に非常に身近な項目が苦情件数の 87%を占めております。特に騒音や悪臭にあっては、多分特定された地点、あるいは事業所からと推測されますので、今後も効果ある改善指導、施策をお願いできたらと思います。

8 ページになります。先ほど BOD の話が出ておりましたが、大山川の小向橋あるいは西行堂川の警察学校南、下田橋で約 6~9 mg/L と比較的高い数値になっております。31 ページの「①健康の確保」「水質汚濁に係る環境目標達成率」を見ますと、8 mg/L 以下という目標値になっておりますので、継続的に水環境の保全に行政指導も含めて、努めていただければと思います。

最後 17 ページになりますけれども、上段の資源回収事業奨励金交付事業ということで、令和 2 年、令和 3 年度の奨励金額が半分以上になっております。多分コロナの影響で、こういった回収活動ができなかったのかなと思いました。他にも先ほどお話もあった通り、コロナ感染の拡大あるいは縮小によって、各種活動が増えたり減ったりと環境活動に大きな影響があったのかなと見てとれます。

いずれにしても全体的に地道で継続的な取り組みが必要かなと強く思った次第でございます。

(山本会長)

本当に細かいところまで見ていただきありがとうございます。

私からも一つ、今の意見に関係してお尋ねしたいところがあります。8 ページの BOD の話ですが、縦軸は年平均なっていますよね。ということは、もっと高い時期もあったりして平均値が 9 mg/L ということで、何を基準に 8 mg/L という目標があって、どの数字をもとに 95%が出てくるのかということをお尋ねしてもよろしいでしょうか。

(事務局)

いろいろとご意見をありがとうございます。

まず会長からあったお話から答えさせていただきますが、ここに書いてある橋での採水に関しては、年 2 回と年 6 回と混在しております。ここでいうと小向橋、下田橋が年 6 回で、西行堂橋、警察学校南は上流で水量も少ないことから年 2 回実施しております。

小向橋は大山川の一番下流の自衛隊の前までの場所になります。西行堂川に関しては、上流から警察学校南の辺りは水量が少ない場所で、西行堂橋まで来ると、小向橋の下の川になりますけれども、小牧地内を流れるのは、自衛隊の近くまでで比較的水量がそれほど多くない川になっております。小向橋に関しては、大山川の水ですが、この審議会でも今までも話は多分出ていたような気がするんですが、不発橋が小牧で

そのあと春日井地内を流れて、再度小向橋で小牧市内を通過するというような状況がありまして、春日井地内がまだ下水の整備があまり進んでいなかったり、工場とかもあったりもする関係で、特に渇水期、これから水が少なくなる時期に、BODが高い数字が出たりしてそれに引っ張られて、このような数字になっているところであります。

西行堂川の方に関しては、どうしても水量が少なく、西行堂川の上流となると上末や下末辺りを通ってくるんですけど、そのあたり下水もないことから、生活雑排水の影響が大きいのかなというふうに分析をしております。

今後継続的に監視しながら、下水の普及もしくは合併浄化槽への転換など市としても進めながら、改善に向かっていきたいと思っております。

もう1点、31ページにある目標のBOD 8 mg/Lについてですが、BOD 8 mg/Lというのは、小牧市は五条川の待合橋が環境基準の測定点になっておりまして、それ以外のところには基準の数字は該当しないんですけど、この待合橋の環境基準がD類型になっておりまして、そのD類型のBODの基準が平均値で8 mg/Lということで、市内全部の場所においても同じように8 mg/Lということで私たちの目標として設定させていただいております。この8 mg/LというのをBODの年平均値のところの95%において達成するというのが目標ということで、掲げさせていただいております。

次に吉本委員からお話のありました件ですが、まず1ページの河川の状況の字が見にくいというはおっしゃる通りだと思いますので、事務局の方でいろいろ努力したいと思います。

12ページの苦情の件数のところで、効果のある改善指導という話もありました。苦情に関しては事業者側である原因発生者側と受け手側である苦情を感じる方の側、あとはその時々々の経済の状況、例えば雨が多く河川の水量が多いなど、いろいろな条件の複合的な要因で苦情は増減します。この年は増えた、減ったという細かい分析は、複合的な条件があるため難しいところはあるんですけど、環境対策課として苦情の件数を減らす取り組みとして、一昨年から市に新しく建築物を作りたいという相談があった事業所さんには、苦情発生を抑制するポイントを書いたチラシみたいなものを配って、できるだけ苦情の抑制に努めていただくための対策をやっているところであります。内容としましては、発生者側ではなく、その周りに住んでいる方々から自分の会社を見てみたらどうなんだろうということを、今一度考えてくださいといったところを、実際の公害の苦情の事例も参考にし、細かいところを書いたものを配っております。その結果がこの件数に反映されるのは少し時間がかかるかもしれませんが、地道ながらそういった取り組みもさせていただいているところでございます。

(今枝委員)

河川の件でお伺いしたいと思ひまして、急に増えたのは、生活排水が原因と推測されるということですが、表の最初の雉子野橋について、去年は9 mg/Lくらいでその時の説明も生活排水じゃないかとのことでした。今回は一気に下がっているわけですが、1年で生活排水が原因でこんなに変わるのかなと数字を見て思ったんですけど、

原因が他にもあるのではないと想像したのですがどうなのでしょう。

(事務局)

おっしゃる通り、去年は雫子野橋が一番高い数字を示しておりまして、実は先ほどお話ししたこともあるのですが、雫子野橋は年2回しか測定をしておらず、そのうちの1回でも大きいのが入ると、数値が跳ね上がるということがあります。年6回採水しているところに比べて上がり下がりが激しいところがあります。雫子野橋は大口町の境のところの橋で、上流はほぼ大口町由来の水が多いところではあるんですが、原因として生活雑排水というのも確かにあると思いますし、上流に工場や事業所がないかということと実際あることはあります。ただ、どこの事業所かまでは追えていないところはあるんですけど、そういう意味では生活雑排水というふうに断定するのは確かに難しいところはあるのかなと思います。

(山本会長)

確かに計測回数が少ないところだと、事務局から説明があったように、多い少ないというのはかなりばらつくとは思うんですよね。だから、この報告書を読んだ市民の方に理解してもらうということが肝要じゃないかなと思います。これから先こういう報告書が出て行かなければならないと思いますので、皆さんから何か良い表現方法があったらぜひご提示願いたいと思います。

(馬場委員)

10 項目程ございますので、ページの順番から質問等させていただきたいと思います。まず1枚開いていただきまして、小牧市の目指す「望ましい環境像」の枠の下に書いてある文言なんですけど、令和3年度の年次報告書には、それぞれの文の前に「小牧市は」と記載していただいたと思います。目指していきますと表現は「小牧市が」というふうに入れた方がいいのではと思いますので、そのように変えていただきたいです。

次にSDGsのロゴの下にあります、未来都市に選定されましたというのは大変名誉なことですので、「内閣府から」というのを入れていただくと、国からもらったんだという感じで、とても名誉なことの表現に繋がるのではと思います。

次に20ページをお願いします。小牧市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）としての目標にあります黒枠の中の「19.1%削減します」というところですが、これは国がもう少し厳しい数字で46%の削減目標を掲げておりますし、今日お配りいただいたゼロカーボンシティに向けた基本方針もあるので、何か対策を取られたのであれば、例えば令和3年度中に計画の見直し等されたのであれば、どこかに記述をしていただきたいです。この19.1%という数字のままでいいのかということを思いましたので、ご検討ください。

次に24ページをお願いします。この環境テーマ指標の枠の中の達成の表現のところで、横棒が引かれているところがあります。これはコロナウイルス感染症の影響があるということで書かれているのですが、例えば、環境関連講座等参加というのを見ていただきますと、令和元年度から令和2年度は参加者の人数が減ったので、コロナ

の影響を受けたということはわかります。令和 2 年度から令和 3 年度のこの関連講座の参加数は 1,018 人から 1,207 人に増えております。これは本当にコロナの影響といえるのかなと思って、ちょっとわかりにくかったです。同じことがエコポイント制度の年間利用者数、これも元年度から 2 年度は減っているのでわかりますが、3 年度増えていてもコロナの影響なのか、ちょっとその辺の説明をしていただけるとありがたいです。

次に 26 ページをお願いします。令和 3 年度の年次報告書では、この大きな表の中に「情報提供」という欄があったのですが、今回ありませんでした。その理由を教えてください。

次に 27 ページをお願いします。この表の一番上の「公共施設のエネルギー消費量」の数値を見ますと令和元年度から 2 年度はコロナだから減っていて、令和 3 年度は増えているのに達成となっているのが分かりませんでした。また、表の一番下の「市内温室効果ガス排出量」の数値の下に括弧で 2015 年度、2017 年度、2019 年度とありますが、ちょっとこれが何か分かりませんので説明をお願いしたいと思います。

次に 30 ページをお願いします。評価のところに先ほどの公共施設のエネルギー消費量についての記載がありますが、消費量が増えているのにコロナというのが分かりませんでした。

次に 31 ページの表の一番上の「大気汚染に係る環境基準達成状況」の基準値が 75% で、進捗状況は元年度、2 年度、3 年度とも 75% とあるんですが、これはどのように数値を出しているのでしょうか。また、達成度が曇りになっているのですが、それに関しての記述が 4 ページにありまして、環境基準ということで、二酸化炭素から始まって浮遊粒子状物質のことが書いてあるんですけれども、それぞれ環境基準を達成したので、測定項目から除外しましたとあるのですが、これは達成しているということなんでしょうか。達成しているのに曇りということなので、わかりにくかったです。今申し上げました 4 ページについて、「除外しました」とか「調査を終了しました」、「測定を終了しました」と、環境基準全体の文章の最後の表現がまちまちなので、統一していただいた方がいいのではないのでしょうか。また、県が測定をやめたことに小牧も従ったというのであれば、環境基準に達成したならわかりますが、まだ達成していないのであれば、調査は継続していく必要があるのではないかと思います。

次に 34 ページ以降のごみに関することなんですけど、下末のバイオス小牧が今年の秋に稼働予定ということを伺っております。3 年度中に何か対応されたのか、取り組みが行われたなら、どこかに記述していただけるといいなと思います。

最後になります。39 ページの「②自然との共生」について、「兒の森の活用促進」に書かれている講座やクイズラリー、整備というのは、こども政策課からもらった数字だと思うんですが、そのほかに、環境対策課の自然環境観察人による、毎月 1 回の定期観察会を行っているということを書いていただけると嬉しいです。また、もう一つ、前年度に大山川の散策マップを作成いたしました。こちらを書いていただけると嬉しいです。

(事務局)

ありがとうございます。まず最初の「小牧市は」というところは、こちらの漏れです。ので、反映させていただきます。SDGsの「内閣府から」については、お話を承りましたので検討したいと思います。

20ページの2030年の温室効果ガス排出量削減目標の件ですが、これは区域施策編の数字を書いているところであります。今後、小牧市の環境基本計画の中間見直しを考えておりまして、その中でこの区域施策編の見直しについても実施していきたいと思っております。事務局で案を作りまして、皆様にご提示させてもらい、数値を決めていきたいと思っております。今現在は、区域施策編の数字しかないものですから、今回このように記載させていただいております。

それから24ページですけど、「一」となっている部分について、新型コロナの影響により、実施困難というところなんです。基本的には達成したかどうかというのは、平成30年度の基準値の欄の数字と見比べて達成しているかどうかということ来判断しておりまして、前年度との比較ではないところがあります。例えば、ここに書いてある環境関連講座の5,071人について、令和元年度に関してはコロナの影響がなかったけれど、令和3年度に関してはコロナの状況もあったことから、わかりませんよというところで「一」という形にさせていただいております。

それから26ページの表の中に「情報提供」の欄がないとのことですが、こちらに記載があるのは主な事業ということで、他にもいっぱいあったものですから、それで割愛させていただいただけということになります。

それから27ページのエネルギー消費量が達成になっている理由ですが、これも先ほどの基準値に照らし合わせて、それより少ない数値なので、前年よりは伸びているけれど、達成という形にさせていただいております。この一番下の段の「市内温室効果ガス排出量」ですが、国のエネルギー統計をもとに部門別に数字を出しているんですけど、人口、事業者数、工業生産額等で按分することから、算出するのに2年ほどずれがある関係で、このずれが下にそのまま記載してあるということになります。

(山本会長)

そうすると下が西暦で上が平成となっているから比較しにくいですね。できれば下も令和とか平成にしてもらえると、もうちょっとわかるのではないのでしょうか。

(事務局)

わかりました。ありがとうございます。

それから30ページですけど、評価の増減の理由はよかったですかね。

次に31ページですけど、大気汚染に係る環境基準の75%の数字の出し方というお話であったと思いますが、指標の欄に一般環境大気測定局SO₂、NO₂、SPM、Oxと項目も書いてありまして、このうちのOxだけ基準が未達成で、3つが達成なので、4分の3で75%という記載の仕方をさせていただいております。曇りの理由としては、基準値と同じなので曇りと書かせていただいております。4ページの話も馬場委員の方からありましたが、小牧市内に大気汚染測定局は2ヶ所ありまして、一般環境測定

局と自動車排ガス測定局の2つがあります。一般環境測定局は、小牧高校の屋上にありまして、これは県が市内全域の大気の状態を調べるために設置してあるものでございます。実は小牧市の41号線の渋滞が原因で大気汚染がひどかったところに、この市役所の北側の道路を41号まで行った角の交差点に、小牧市の自動車排ガス測定局を設置させていただいて、長年測定させていただいております。目的としては、道路沿線に限った環境の状態を、41号線の渋滞等による背景の影響ということで調べさせていただいております。ずっと測定する中で、先ほどの説明でもちょっと話をさせていただきましたけれども、5項目のうちの2項目に関しては、ずっと基準を達成していたことから、途中で測定をやめました。残り3項目に関しては、0xだけはずっと非達成できていたんですけど、残りの2項目が達成できておりまして、41号線の3車線化の工事も終わり、随分流れも良くなったということと、電気自動車等の社会的潮流や環境規制の法律も整備されてきていることから、これ以上自動車沿線の大気の状態が悪くなるということはないだろうということで、終了させていただいております。ちなみに、非達成の0xの濃度ですけど、全国的に見ても達成率が0%という数字のものでありまして、国の方で基準の設定がどうなのということも言われているようなところでもあります。そのような理由から小牧市として一般環境の状態は、小牧高校のところの一般環境測定局で見ていけばいいだろうということで、自動車排ガス測定局に関しては終了させていただいたという経緯になります。

続きまして34ページのバイオス小牧の取り組みより先に39ページについてお答えさせていただきます。39ページの「自然との共生」、「兒の森の活用促進」のところでは自然環境観察人さんの定期観察会について、コロナの関係で中止になっていた時期もあるんですけど、やれる範囲内で継続的に観察人さんのお力でやっていただいております。観察人さんの中心の事業でもありますので、ぜひ記載する方向で検討して参りたいと思います。あと大山川の散策マップも昨年、作成させていただきまして、非常に見やすいものができたなと思っております。それも含めて記載について検討して参りたいと思います。

(事務局)

下末にありますバイオス小牧につきましては、食品工場等からの食品残渣を原料としてメタンガス発酵による発電を行う施設ということで、昨年の5月に工事が始まって、今工事を進めていると聞いております。この秋に竣工するとのことですが、少しずれ込むという話がありまして、試運転を経て、本番稼働を予定しているところがあります。こちらにつきましては、民間事業者で協定を締結していることもあり、記載するかについては、事務局と検討したいと思います。

(馬場委員)

ちょっと私が勘違いしていたのが、曇りマークはまだ達成していないというより基準値と同じということなんですね。いつになったら晴れるのかなとか、私一般公募で参りましたので、どうしてもそういう見方をしてしまいます。これが例えば晴れマークの色が塗ってないお日様ですとか、曇りでも白抜きの曇りとか、変化がないことに

対して曇りというのはどうかなと思いました。毎年のイメージですので、晴れマークにするために、基準値をもう少し低くしてもいいんじゃないかと思ったので、ご検討ください。ご説明ありがとうございました。

(山本会長)

いつも馬場委員にはしっかりと見ていただいて本当に感謝しております。せっかくなので、私の方からも一つ言わせてもらおうと、先ほどの 31 ページの環境測定局の話ですけれども、普通「%」というのは同じ項目に対して、数値で比較できればそれは「%」でいいんだけど、この場合は SO₂ だったり、NO₂ だったりとはこれは「%」ではなくて、4 項目中 3 項目でクリアとか、そういうふうにした方がわかりやすいんじゃないかなと思います。私の提案ですけれども、よろしく願いいたします。

それと、4 ページのちょうど真ん中に「愛知県平均と比較すると」とありますが、図 1 から 3 を見るとどれが愛知県の平均値なんでしょうか。

(事務局)

資料が見つらくて申し訳ないですけど、図の上のところに愛知県(自)、愛知県(一)とか書いてあるものが、愛知県の自動車排ガス測定局、愛知県の一般環境測定局という意味合いで書いてありまして、それぞれの愛知県の平均と比較してということになります。

(山本会長)

そうすると、この小牧市(一)というのは、これは愛知県が設置した測定局ですね。

(事務局)

そうですね。小牧市内にある愛知県の一般環境測定局という意味です。

(山本会長)

わかりにくいので、もうちょっとこれをわかるようにしていただけるとありがたいです。

(事務局)

図のわかりやすい説明について検討させていただきたいと思います。

(岡村委員)

一般の市民としてこちらの資料を見せていただいて、私たちは学識経験者ではないですけれども、読んでわかりやすい資料でした。SDGs のアイコンは、小牧市のいろいろなところで拝見することが多くなってきて、学校の子どもだったりとか、家庭で親御さんに、このアイコンのことを伝えたりとか、広報やカレンダーなど小牧市が SDGs 未来都市に選定されたということを目にするようになりました。このデータから 2030 年に向かって、どうやったら市民の方たちの意識が高まっていき、一人一人が小牧市を良くしようという意識を高められるかというのが大事かなということを感じて持ってきました。

そうなるためにはいろいろな場所で、小牧市はこういう都市なんだよというのを、視覚的に見る機会をこれからも継続していただきたいなということと、やはりコロナがありましたので、人と人が触れ合う機会というのは、この 2、3 年間少なくなっ

きて、データからもそれが読み取れます。今後どうなるかは分かりませんが、やっぱりそういう機会は維持していただきたいです。普段、私たちが「環境」と聞くとすごく難しいと思ってしまって、何をしたらいいかわからないと思ってしまいますけども、やっぱりよくよく SDGs のアイコンを見たりとか、小牧市 SDGs ガイドブックというのを作成されていてそれを拝見させていただいたんですけど、かなり読みやすく、結構身近に、こういうことやればいいんだということと繋がりががあります。なので、市民の方にとって難しい内容なんですけど、それと市民をつなぎ合わせるようなフォローを今後やっていただくと一気には変わらないと思うんですけど、少しずつ意識が高まれば、データに出てくるのではないかなと思います。

(山本会長)

なかなか難しいというか、事務局の方から 1 度に答えられるような内容ではないですけども、今後もずっと続くわけですから、ぜひ検討していただきたいと思います。

(宮脇委員)

気候変動の関係ですが、私はストップ温暖化教室で、小学校とか児童クラブから要請があるとお邪魔させていただいておりますが、年次報告書の中で、もうちょっと具体的に書いていただけるとありがたいなと思います。

また、27 ページの「基本目標 2 地球温暖化対策の推進」の「③気候変動の適応」というところで、「全国で」という記載がありますが、全国でどういう動きをしているのかということも知っていただけたらいいのかなと。例えば、産業革命後の気温上昇を 1.5℃までに抑えるという目標がありますが、このままいくと 4℃上昇するとも言われています。じゃあどうしたらいいのかということをもうちょっと投げかけるような内容であったら嬉しいなと思います。特に、明日の人材のために、子どもたちにどうそれを伝えていくかということだと思しますので、もうちょっと学校教育においてはこんなふう小牧市としてはやっていくんだ、あるいは社会教育はこうだよ、あるいは職場、環境学習施設ではどんなふうやるのかということ。温暖化防止活動推進センターも愛知県にありますので、そういうのを活用しながら、子どもたちの教育として何をするのかということを示していただけるとありがたいです。

あと追加ですが、38 ページの「風致の優れた地域の保全」の説明の中に、「市民が自然風景に親しむ場として提供する」とあるんですが、まめなしの里とか仮称であってもいいので整備をして参りますというような表現をしてもらえると、この年次報告書も市民の皆さんにわかりやすいんじゃないかなと思いますので、具体的な固有名詞があるのであればできるだけそれを謳っていただきたいと思います。

(山本会長)

実際どんな文言を盛り込めばいいのか、これなかなか難しいことだと思います。この会議は今年最後ですよ。今の意見が反映されて、最終的に年次報告書となるわけで、その辺がどのように改定されたかというのは知ることができないわけですかね。

(事務局)

今日いただいたご意見で報告書を修正させていただき、修正案を皆さんに提示させ

ていただきます。

(山本会長)

それでどんなふうに改定されてということがわかるのですね。また、意見出すことを可能ですよね。

(事務局)

電話でも結構ですし、どういう形でも結構ですので、忌憚のないご意見をいただければと思います。

(山本会長)

委員の話を聞いて、確かにそうは思うけれども、具体的な文面が出てこないんですよ。事務局の方でも同じだと思うので、その辺はもう一度最終版を見て、ぜひまた意見ありましたらお伝え願えればいいと思います。

(森川委員)

先ほど学校教育という話を出していただきました。小牧市が SDGs 未来都市に選定されたというのを受けて、昨年度ですけど、我々小牧市の小中学校長会とそれから教育委員会事務局、それから関連する部局と毎年 11 月に教育懇談会というのをさせていただいております。昨年度、この SDGs 未来都市というものについて、学校現場としてどう取り組んでいくかという懇談を行わせていただきました。

その時はとりあえず学校側からこんなことをやれるというプレゼンテーションをさせていただいて、いろんな関係部局の方々からご意見いただきながらやったんですけども、なかなか難しく、SDGs というものの自体が、実はカリキュラム上には載っていないことなので、特別にあつらえてやる必要があります。それはそれでやっていけばいいかなと思いますけども、やっぱり通常の授業の中でどうやっていくかっていうことを一つ考えないといけない。我々は、教育課程に則って、どこの学校でも同じレベルができるようにやっていますが、それぞれの教科の教育課程が進んでいく中に、SDGs がどこで関係してくるのかっていうのを一度洗い出して、少しそこを意識しながらやっていこうとか、あるいは SDGs を先進的に取り組んでいращやるところが自治体や学校などたくさんありますので、そういったところの事例を勉強しながら、こういうことができるんじゃないかいうことを昨年懇談して、それが 1 年経ってどこまでやったかなというところですが、なかなかこれは難しいなと思っています。

一番難しいなと思っているのは、地球温暖化に資することができるのかっていうのが小学生だとなかなか難しいですけども、中学生の少し考えることができる。例えば、電気自動車が大変話題になっていて、身近な存在になってきましたけれども、電気自動車を作るところから廃棄するところまでにかかる負荷とハイブリッド車の場合はどうかとか、あるいはトヨタさんが一生懸命やってらっしゃる水素系の燃料電池車と、水素エンジン車というのがありますけれども、どれがというか、どうミックスしていくのが一番いいだろうかということを考えます。やっぱり電気自動車や太陽光発電のパネルを作るときにかかる CO2 排出量とか、それをどうやって処分するのか。

これから、初期の頃に作られた太陽電池が大量廃棄をされるのではないかと聞いていますが、非常に難しいなと思います。ただ、子どもたちに難しいけれども考えなければいけない問題だっていうところだけは、最低限考えてもらいながら、小学校であれば中学校へ送り出し、中学校であれば高校へ送り出しということでなんとかやっていこうかというのが学校教育の現場かなという感じであります。今の現状をお話させていただきました。

(山本会長)

ありがとうございます。宮脇委員に対しての回答の一つじゃないかなと思うのですが、25 ページの表にある学校版 EMS というのと何が違うのでしょうか。

(森川委員)

学校版 EMS というのは市から与えられたリサイクルとかエネルギーの消費の関係についてこうやってやりますという宣言を出して、それについてこういうふうに節電をします、リサイクルしていますなど具体的に活動として取り組むということです。それが、学校版 EMS の基準に合っているかどうか、また、審査をしていただくということで取り組んでいるので、あんまり正直頭は使ってないです。むしろ、こう行動優先的に子どもたちでもこういうことをやると、環境に良いよねといいながら具体的に活動しています。

(山本会長)

ありがとうございます。

今の意見も参考にして、また文面を検討していただければいいのかなと思います。

(長内委員)

報告書ということなので、例えば、1 年間やったことが、何らかしらの努力をされていると思うのですが、それが今年どのくらい変わったかというのがちょっとわかりづらいかなと。複数年の実績は記載されているんですが、今年 1 年頑張ったなと思って見たときに、何かちょっとわかりにくいのかなというのを思いました。

もう一つがもうちょっと細かいデータが欲しいなと思いました。例えば、一番初めにあった河川の BOD の測定について、年 2 回やったところもあれば、複数回やる場所もありますよと。そういうのをいつやったのかというのがわかりにくいし、業者さんに頼まれているのか、事務局側で測定されているのか分からないですけれども、反映するしないの前にこの会議の中で、何月はどれぐらいだったよ、何月はこれぐらい下がったよ、でも何月はすごい上がったよというのがわかるといいのかなと思います。何月にこういうことがあるから、それに対してこういうことやっていったらいいんじゃないかという意見が交換できるんじゃないかなというのを思いました。

ほぼできあがっていますし、皆さんからもご意見があったので、重複してしまうのでそれは割愛させていただきますけども、次年度以降に、一般市民の方が見たときに、非常にわかりやすいようになればいいなと思いました。

もう 1 点目が、先ほど先生もおっしゃられていましたが、もうちょっと子どもたちに環境教育というのを、市としても積極的にやった方がいいんじゃないかなと思いま

す。子どもたちってやっぱり体を使って、目で見、肌で感じて、自分たちの街がこうなんだという体験が、結構影響されるんじゃないかなと思います。

東側の桃花台とかの小学校の中では体験されているというのがあったんですけど、西側の小学校の皆さんはやっていないのかなと思いました。緑が豊かなところはやっているけども、工業が多いところはやってないよというのは、ちょっと寂しいなと思ったので、積極的に声かけだったりそういった催し物を、市全体としてやってもらえるとすごくいいんじゃないかなと思いました。

(山本会長)

今年度の報告書に反映するんじゃなくて、次年度以降の報告書に反映していただきたい意見をまとめていただいたんじゃないかなと思いますので、また次年度以降よろしくをお願いします。

(事務局)

貴重な意見ありがとうございます。いくつかいただいた中で、次年度以降の話の件は、また検討させていただきたいと思います。先ほどあった子どもたちの環境教育で東側の方はあって、西側の方は少ないというお話ですが、おっしゃって見えるのは水生生物調査だと思います。実際は川に入れる状況じゃないと、三面張の川では子どもたちが危険なため入れられないものですから、確かにおっしゃる通り東側の方の篠岡地区だとか小牧原小学校でもやっていますが、下流の方の北里地区ではなかなか難しいという状況もあります。そんな中で、先ほど馬場委員から出ました自然環境観察人さんにご協力いただきながら、小学校の児童クラブに市から働きかけをしまして、川に入らなくても身近な校庭に生えている草花を観察するとか、近くの公園の昆虫を捕まえるといったことを、児童クラブに当たる形で、市内全域にお願いしているところでもあります。ただ、あくまでも児童クラブからのご希望があればというような形であることから、まだ市内全域まで、どこの小学校でもその環境教育といいますか自然に触れ合えるような環境教育ができていくかということ、まだまだだと私自身も思っております。今後も小牧市内の小学生は、どこでもそういった機会があるようなことを目標に頑張っていきたいと思っております。

(石川委員)

私がふと気づいただけですけど、12 ページに公害の種類別苦情件数っていうのがあって、表が載っていて内容も書いてあるんですけど、その上に書いてある悪臭の文章の中に、以前の苦情発生原因は、大型化学工場や畜産農業等からのいわゆる「悪臭」が大部分を占めていたのに、最近は飲食店のサービス業からの「におい」が増加傾向にあるとあります。どちらかといえば、以前は体に有害なものの悪臭の苦情が多かったのが、最近は生活のそういった感覚的なものにおいの苦情が多いんですっていう文章があった下で、この表を見たときに、悪臭の苦情の件数が令和2年度と3年度で、1.5倍だったので、何があったんだろうと考えました。ちょうど令和2年度はコロナで皆さんがお家にいらっしゃることで、令和3年度になってだんだん動き始めて、サービス業とかレストランとか動き始めてのにおいなのかなと思って内容を見る

と、工場関係もとなっていて、苦情件数自体はそんなに変わってないのに悪臭だけが1.5倍と多くて気になりました。ただ、やっぱり令和2年度は工場も止まっていた時期もあったように思うので、できればコロナ以前の年も表に入れといていただけると。この数年は工場とかも閉まっていたりとか、ちょっと変則的なことが多かったので、コロナ以前と比べて変わってないとなれば、もともとこういうものだったのかなという判断できると思います。

原因が工場になっていると、何となく悪臭で工場からのにおいというのと体に悪いんじゃないかっていう、ちょっとイメージがつくので、コロナ前も分かるようにデータがあったらいいかなと思います。

(事務局)

令和元年度は24件で、24、27、41と激増しております。理由としては、なかなか詳細な分析は難しいところがあるんですけど、苦情というのは発生源側の状況と、においを感じる人の心情とかそういったものもあります。先ほどおっしゃったようにコロナの影響ということで、リモートワークで自宅にいる時間が長くなるものですから、お昼の時間に今まで気になってこなかった工場のにおいや音が気になって苦情が増えている部分もありますし、逆に事業所の発生源側の方が減ったというような状況もあったりします。あと悪臭、水質汚濁もそうですが、例えば雨が降らない時間が長いと、特にこれからの渇水期、水が消えた時期に雨がずっと降らないと、河川の腐敗が進んでにおいがすごくするだとか、雨が多くて、どんよりした日なので悪臭が漂う時期が多かったとか様々な気象的要因や社会的状況も含めてということがあるものですから、なかなか一概に何が原因だよとバシッていえるところではないです。ただ、実際に令和3年度の悪臭苦情の状況を見ていますと、例年に比べて一般家庭から浄化槽排水の悪臭、浄化槽排水にまつわる悪臭苦情が多いという傾向はありました。浄化槽排水に関しては、先ほどの話で水路の水の流れが悪い時期に、浄化槽の排水だけになってしまいますとそれが腐敗してにおうというところもあったりするものですから、それがすべてではないと思うんですけど、そういった傾向もありました。苦情があった場合は、状況次第ですけど、関係機関と調整してその都度原因調査をしておりますが、先ほどもお話しした通り事業者側にチラシを配るような形で発生の抑制に努めているところでございます。

(山本会長)

確かにページ面で難しいんだと思いますけど、2年間だけのデータだと、こんなふうに上がった下がったというのが出てしまうので、やっぱりもう少し幅広いデータが必要なのではないかなと。先ほど話もありましたが、やっぱり情報量が少ないところはやむを得ないのかなという気がしますが、出せるのであればもうちょっとうまい出し方があるんじゃないかなと思います。

(酒井委員)

とてもよくまとめていただいていると思ひまして、ありがとうございます。私どもが見てもわかるような資料でございます。

この資料についての報告ではないんですけど、先ほども環境学習をしていると申し上げましたが、この中に出てくる廃食油の処理でせっけんを作ったり、ペットボトルを再生したものでマイバッグを小学生の子どもたちに作ってもらって、それを使ってもらうとか、そういう環境にいいことを少しやらしていただいております。

それからエコライフチェックシートというのをずっと小中学校にお願いして、どのような環境にやさしいことをしているかということ調べていたんですけど、今年度はちょっと事情があって、やめておりますが、そのようなものから、子どもたちに環境についての意識を高めていただくということ、私たちはささやかながら活動を続けておりますので、またご指導いただければ、よろしくお願ひしたいと思ひます。

(山本会長)

一通り皆様からのご意見が出たと思ひますけれども、議題の(2)に関しましては、これで終了にしたいと思ひます。

次に3 その他として、事務局から何かございますでしょうか。

その他(1) ゼロカーボンシティ実現に向けた市の環境率先行動基本方針について

(事務局)

事務局から1点だけその他として説明させていただきます。

お手元の資料に紙1枚で「ゼロカーボンシティ実現に向けた市の環境率先行動基本方針」というものをお配りさせていただいております。そちらの方の説明させていただきたいんですけど、小牧市におきましては、令和3年6月にゼロカーボンシティを表明しまして、地球温暖化対策の取り組みをより積極的に推進するために、今年度ゼロカーボンシティ実現に向けた市の環境率先行動基本方針を定めさせていただいております。内容としては、国の計画を準じたところではあるんですが、1点目として太陽光発電設備の最大限導入、2点目が公共施設のLED化の推進、3点目として公用車への電動車の導入、4点目として公共施設のZEB化の推進、ネット・ゼロ・エネルギー・ビルディングの略ですけど、5点目に再生可能エネルギー電力調達の推進の5点でございます。

この基本方針に基づきまして、市としまして今後事務及び事業を進めて参りたいと思っておりますので、この場で報告させていただきました。

(山本会長)

ただいまの報告に対して、各委員の方からご質問等ありましたら、伺いたいと思ひます。

ないようですので、その他を終了したいと思ひます。

以上で、本日予定していた議題と報告はこれで終了したいと思ひます。それでは事務局の方にお返ししますので、よろしくお願ひいたします。

(事務局)

ありがとうございます。以上をもちまして、令和4年度第1回小牧市環境審議会を閉会いたします。本日はありがとうございます。

以上